

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館研究報告 vol.22-1; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009183">http://hdl.handle.net/10502/00009183</a>

1997—22<sub>卷</sub>1<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告



記憶装置としての名前

——セントラル・サン(|Guiと||Gana)における個人名の民族誌——菅原和孝

農村の宗教対立を通してみた転換期のルーマニア社会——新免光比呂

実践的問題解決過程としての技術

——東部インドネシア・ティドレ地方の土器製作——後藤 明

Aspects of Ethnicity among the Sri Lankan Malays

—— Bachamiya Abdul Hussainmiya

The Role of Nationalism in the "New Buddhism"  
of the Meiji Period —— Brian A. Victoria



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

22 卷 1 号

1997 年

## 目 次

### 記憶装置としての名前

——セントラル・サン (IGui と Gana) における個人名の民族誌——……………菅原和孝…………… 1

農村の宗教対立を通してみた転換期のルーマニア社会……………新免光比呂…………… 93

### 実践的問題解決過程としての技術

——東部インドネシア・ティドレ地方の土器製作——……………後藤 明……………125

### Aspects of Ethnicity among the Sri Lankan Malays

…………… Bachamiya Abdul Hussainmiya……………189

### The Role of Nationalism in the “New Buddhism” of the Meiji Period

…………… Brian A. Victoria……………201

彙 報……………235

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……………246

国立民族学博物館研究報告執筆要領……………247

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 22 No. 1

1997

---

SUGAWARA, Kazuyoshi	A Name as a Mnemonic Device: An Ethnographic Study of Personal Names among the Central San ( Gui and   Gana) .....	1
SHIMMEN, Mitsuhiro	Social Change and Religious Conflict in a Romanian Village .....	93
GOTO, Akira	Technology as a Process of Practical Problem-Solving: Pottery Making in Tidore, Northern Maluku, Indonesia .....	125
HUSSAINMIYA, B. A.	Aspects of Ethnicity among the Sri Lankan Malays...	189
VICTORIA, Brian A.	The Role of Nationalism in the "New Buddhism" of the Meiji Period .....	201

彙 報

(平成9年1月～平成9年3月)

人事異動

(任期満了)

3月31日 館長 佐々木高明  
(教育職)

(採用)

2月1日 第二研究部助手 榊屋 友子  
(停年)

3月31日 第二研究部教授 杉村 棟  
(4月1日付けで龍谷大学教授に就任)

(客員研究部門)

(任期満了)

3月31日 第二研究部教授 石井 溥  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)

第二研究部教授 片倉 素子  
(中央大学総合政策学部教授)

第三研究部教授 川田 順造  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)

第三研究部教授 佐藤 俊  
(筑波大学歴史・人類学系教授)

第二研究部助教授 田中 雅一  
(京都大学人文科学研究所助教授)

第三研究部助教授 木村 秀雄  
(東京大学大学院総合文化研究科助教授)

(外国人客員研究部門)

(任期満了)

3月31日 第五研究部教授 馬 戎  
(中華人民共和国, 北京大学社会学人類学研究所教授)

〈任期9. 1.10～9. 3.31〉

第五研究部教授 高 恵 星  
(アメリカ合衆国, イーストロック(東アジア研究)研究所)

〈任期8. 4. 1～9. 3.31〉

第五研究部助教授 色 音

(中華人民共和国, 中国社会科学院民族研究所副研究員)

〈任期8. 4.15～9. 3.31〉

特別共同研究「人口移動の基礎研究」

第2回国際シンポジウム

◎多様化する北米の人口移動：その課題と可能性

期間 平成9年1月20日(月)

～1月22日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、北米への人口送り出し社会の状況と国際経済、及び受入れ社会としての対応に焦点を当てて、人口移動の将来を視野に入れた議論がおこなわれました。

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

杉村 棟 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部長

松原 正毅 国立民族学博物館地域研究企画交流センター長

小村久米夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

(委員長)

大津留(北川)智恵子

国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授

(委員)

五十嵐武士 東京大学大学院法学政治学

	研究科教授	村山 裕三	大阪外国語大学外国語学部
押川 文子	国立民族学博物館地域研究 企画交流センター助教授	森川真規雄	同志社大学社会学部
村上 勇介	国立民族学博物館地域研究 企画交流センター助手	米山 裕	東洋女子短期大学欧米文化 学科
帯谷 知可	国立民族学博物館地域研究 企画交流センター助手	日 程	
阿部 健一	国立民族学博物館地域研究 企画交流センター助手	1月20日 (月)	
寺田 吉孝	国立民族学博物館第二研究 部助手	10:00	受付
伊藤 悉彦	国立民族学博物館研究協力 課長	11:15	開会式 (司会:大津留智恵子) あいさつ 佐々木高明
報告・討論者		11:30	基調演説 大量移民の新しい波と新たなるア イデンティティの模索 五十嵐武士
Escobar-Latapi, Agustin		13:30	セッション1:送り出し社会の社 会・経済的状況 (司会:米山 裕)
CIESAS Occidente			パラドックスの鍵:メキシコの安 定化,社会状況と国外移民,1988 年~1994年 A. Escobar-Latapi
Kroes, Rob	University of Amsterdam	14:00	1990年代,中国南部の国外移民2 地域における家族戦略 Yuen-fong Woon
Martin, Philip	University of California, Davis	14:30	第1次・第2次移民の社会・経済 的背景:レバノンを事例として 橋本 光平
Mclellan, Janet	University of Toronto	15:15	コメント 米山 裕
Nakanishi, Don	University of California, Los Angeles	15:30	討論
Sassen, Saskia	Columbia University	1月21日 (火)	
Woon, Yuen-fong	University of Victoria	9:00	セッション2:産業の構造変化と 労働者の移動 (司会:伊豫谷登士翁)
五十嵐武士	東京大学大学院法学政治学 研究科		経済統合と米墨移民 Philip Martin
伊豫谷登士翁	東京外国語大学外国語学 部	9:30	経済構造の変化とアジア系移民の 科学者・技術者 庄司 啓一
大津留智恵子	国立民族学博物館地域研 究企画交流センター	10:15	都市における新しい雇用体系:移 民労働者への影響 Saskia Sassen
小井土彰宏	上智大学外国語学部	10:45	コメント 伊豫谷登士翁
庄司 啓一	城西大学経済学部	11:00	討論
高木真理子	東海女子大学文学部	13:30	セッション3:受け入れ社会での 定着と摩擦 (司会:村山 裕三)
竹沢 泰子	筑波大学社会科学系		民族の天国? ハワイにおける協 調的民族間関係の神話 高木真理子
橋本 光平	PHP 総合研究所	14:00	潜在的勢力と現実の勢力:アジア
宮川 成雄	同志社女子大学学芸学部		

系アメリカ人の政治参加

Don Nakanishi

14:45 メキシコ系移民の取り込みと排除の力学 小井土彰宏

15:15 「東洋系」が社会的弱者でなくなった場合：オンタリオ州マークハムでの中国系とカナダ人の衝突 森川真規雄

15:45 コメント 村山 裕三

16:00 討論

1月22日(水)

9:00 セッション4：「国民」をどう定義づけるか(司会：大津留智恵子) マルチカルチュラルリズムと市民：アメリカの統合か分離か

竹沢 泰子

9:30 アメリカの移民・難民法：「外国人」に対する曖昧さの法的考察 宮川 成雄

10:15 カナダ：マルチカルチュラルな地球の視野で見た国民

Janet McLellan

10:45 地球化と地域化の合間での国民

Rob Kroes

11:15 コメント 大津留智恵子

11:30 討論

14:00 セッション5：総括討論(司会：大津留智恵子)

問題提起 各司会者

14:30 総括討論

16:45 閉会 大津留智恵子

特別共同研究「国家と民族集団」

第1回国際シンポジウム

◎中東における国家形成と民族関係

期間 平成9年1月28日(火) ~1月30日(木)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、中東における国家形成の抱える諸問題を民族・エスニック諸関係の観点から検討することを目的として、議論が行われ

ました。

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

杉村 棟 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究部長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部長

松原 正毅 国立民族学博物館地域研究企画交流センター長

小村久米夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

(委員長)

臼杵 陽 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授

(委員)

鈴木 薫 東京大学東洋文化研究所教授

長澤 栄治 東京大学東洋文化研究所助教授

柳橋 博之 東北大学大学院国際文化研究科助教授

大塚 和夫 東京都立大学人文学部助教授・民博客員助教授

小杉 泰 国際大学大学院助教授

西尾 哲夫 国立民族学博物館第二研究部助教授

帯谷 知可 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手

伊藤 悉彦 国立民族学博物館研究協力課長

報告・討論者

アイケルマン, デール F.

ダートマス大学人類学教科

授 (アメリカ合衆国)  
 ゴールドバーグ, ハルヴェイ E.  
 エルサレム・ヘブライ大学  
 社会学人類学科教授 (イス  
 ラエル)  
 ハムマーディ, アブドゥッラー  
 プリンストン大学人類学科  
 教授 (アメリカ合衆国)  
 イブラーヒム, サッドウッディーン  
 カイロ・アメリカ大学社会  
 学科教授 (エジプト)  
 トブラク, ザーフェル  
 ボスフォラス大学歴史学科  
 教授  
 松原 正毅 国立民族学博物館地域研究  
 企画交流センター長  
 臼杵 陽 国立民族学博物館地域研究  
 企画交流センター助教授  
 大塚 和夫 東京都立大学人文学部助教  
 教授, 国立民族学博物館客員  
 助教授  
 赤堀 雅幸 専修大学法学部講師  
 伊能 武次 中部大学国際関係学部教授  
 加藤 博 一橋大学経済学部教授  
 加納 弘勝 津田塾大学学芸学部教授  
 木村 修三 神戸大学法学部教授  
 クレイボ, アリー  
 東京外国語大学外国語学部  
 客員教授  
 小杉 泰 国際大学大学院国際関係研  
 究科助教授  
 サドリヤ, モジュタバ  
 中央大学総合政策学部教授  
 清水 学 宇都宮大学国際学部教授  
 鈴木 薫 東京大学東洋文化研究所教  
 授  
 田村 愛理 東京国際大学商学部助教授  
 富田 広士 慶應義塾大学法学部教授  
 中田 考 山口大学教育学部助教授  
 長澤 栄治 東京大学東洋文化研究所助  
 教授  
 宮治 一雄 恵泉女学園大学人文学部教

授

日 程

1月28日 (火)  
 10:00 参加者登録  
 11:15 開会式 (司会:松原 正毅)  
 あいさつ 佐々木高明  
 11:30 基調講演 (司会:臼杵 陽)  
 文化世界・政治単位・アイデンテ  
 イティー比較史のなかのネイショ  
 ン・ステイト現象 鈴木 薫  
 13:30 セッション1:国家形成とエスニ  
 シンティー理論的展望  
 (司会:ゴールドバーグ)  
 中東におけるエスノナショナリズ  
 ムおよび宗教の政治 アイケルマン  
 14:15 国家形成とエスニシンティー政治経  
 済学的展望 宮路 一雄  
 15:15 中東におけるエスニック関係の変  
 容—先進・後進の枠組みから—3  
 つの国におけるエスニック集団を  
 事例に— 加納 弘勝  
 16:00 討論 ディスカッサント  
 アリー・クレイボ  
 1月29日 (水)  
 9:00 セッション2:国家形成とエスニ  
 ック集団 (司会:イブラーヒム)  
 ユダヤ人国家の宗教・エスニック  
 ・ディレンマ—文化的・歴史的パ  
 ースペクティブ ゴールドバーグ  
 9:45 エジプトの政治変動における宗教  
 と国家 伊能 武次  
 10:30 ズィンミーとマイノリティーイス  
 ラーム的共存構造と国民国家  
 田村 愛理  
 11:15 討論 ディスカッサント  
 木村 修三  
 14:00 セッション3:エスニシンティーと  
 イスラーム (司会:清水 学)  
 アラブ世界におけるエスニシテ  
 の多様性 イブラーヒム  
 14:45 イスラームにおけるエスニシンテ  
 中田 考



15:45 帝国の遺産と国民国家の枠組みの  
狭間のエスニシティ サドリア

16:30 討論 ディスカッション  
小杉 泰

1月30日(木)

9:00 セッション4:エスニシティとアイ  
デンティティ

(司会:アイケルマン)  
モロッコにおける国家、部族主義、  
およびエスニシティ  
ハムデー

9:45 多元的アイデンティティとエスニ  
シティ—北スーダンの事例から—  
大塚 和夫

10:30 遊牧民 Minority or Vagabond?  
—「国民国家」エジプトの形成と遊  
牧民— 加藤 博

11:15 討論 ディスカッション  
赤堀 雅幸

13:30 セッション5:エスニシティと国  
民経済 (司会:宮路 一雄)  
近代トルコにおける国民経済と民  
族関係 トブラク

14:45 パレスチナおよびヨルダンにおけ  
るアラブ・バンク 清水 学

15:15 エジプトにおけるエタティズムと  
“民族ブルジョワジー”  
長澤 栄治

16:00 討論 ディスカッション  
富田 広士

16:30 閉会の挨拶

#### 文部省国際シンポジウム

◎民族の文化とその政治経済学—東アジアの  
少数民族を例として—

期間 平成9年2月13日(木)  
～2月16日(日)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、東アジアの  
少数民族に焦点を当て、民族や文化、  
地域社会国家を巡る最新の状況を明  
らかにして、諸問題解決のために地

域を超えた展望を開くべく活発な討  
論が行われました。

#### 組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

杉村 棟 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究  
部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究  
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究  
部長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究  
部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究  
部長

塚田 誠之 国立民族学博物館第二研究  
部助教授

小村久米夫 国立民族学博物館管理部長

#### 実行委員会

(委員長)

横山 廣子 国立民族学博物館第二研究  
部助教授

(委員)

大塚 和義 国立民族学博物館第一研究  
部教授

長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究  
部教授

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第一研究  
部助教授

小長谷有紀 国立民族学博物館第一研究  
部助教授

塚田 誠之 国立民族学博物館第二研究  
部助教授

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究  
部助教授

佐々木史郎 国立民族学博物館第四研究  
部助教授

田村 克己 国立民族学博物館第五研究  
部助教授

野林 厚志 国立民族学博物館第三研究

部助手  
 伊藤 憲彦 国立民族学博物館研究協力  
 課長

事務局  
 浦野 民子 国立民族学博物館研究協力  
 課国際協力係  
 竹内登紀子 「東アジアの民族文化」事  
 務局

(報告者)  
 S. アルチュノフ  
 ロシア科学アカデミー民族  
 学人類学研究所  
 蔣 斌 中央研究院民族学研究所  
 喬 健 東華大学族群関係與文化研  
 究所  
 D. C. グラッドニー  
 ハワイ大学マノア校イース  
 トウエストセンター  
 果 洪昇 中国社会科学院民族研究所  
 M. H. ハンセン  
 オスロ大学開発環境研究所  
 郝 時遠 中国社会科学院民族研究所  
 T. ヘーベラー  
 トリアー大学東アジア・太  
 平洋研究所  
 洪 時栄 中央民族大学民族理論政策  
 研究所  
 江 平 国家民族事務委員会民族問  
 題研究センター  
 金 炳鎬 中央民族大学民族理論政策  
 研究所  
 M. クリュコフ  
 淡江大学ロシア・スラブ研  
 究所  
 松本光太郎 東京経済大学  
 大塚 和義 国立民族学博物館  
 庄司 博史 国立民族学博物館  
 唐 屹 国立政治大学  
 塚田 誠之 国立民族学博物館  
 横山 廣子 国立民族学博物館  
 (討論者)  
 朝倉 敏夫 国立民族学博物館

J. S. イーズ 滋賀大学  
 小長谷有紀 国立民族学博物館  
 S. K. マラーニ  
 国際基督教大学  
 松澤 員子 神戸女学院大学  
 毛里 和子 横浜市立大学  
 村上 勝彦 東京経済大学  
 長野 泰彦 国立民族学博物館  
 野林 厚志 国立民族学博物館  
 大林 太良 東京女子大学  
 佐々木信彰 大阪市立大学  
 佐々木史郎 国立民族学博物館  
 田村 克己 国立民族学博物館  
 N. ジュコフスカヤ  
 ロシア科学アカデミー民族  
 学人類学研究所

日 程

2月13日(木)  
 参加者登録

2月14日(金)  
 10:00 開会式 (司会:田村 克己)  
 あいさつ 佐々木高明  
 江 平  
 10:20 問題提起 横山 廣子  
 10:40 セッション1  
 (座長:長野 泰彦)  
 10:40 チベット仏教とチベット伝統文化  
 江 平  
 11:20 多文化主義と文化カウンセリング  
 喬 健  
 11:50 討論 コメント:松澤 員子  
 13:40 セッション2  
 (座長:田村 克己)  
 13:40 社会変化のプロセスにおける民族  
 帰帰, エスニック・アイデンティ  
 ティと民族対立—経済・社会発展  
 としてのナショナルリティーの問題  
 のプロセス— T. ヘーベラー  
 14:10 現代化の過程における少数民族文  
 化 郝 時遠  
 14:40 討論 コメント:佐々木信彰  
 15:35 セッション3

- (座長：庄司 博史)
- 15:35 中国南部少数民族をめぐる四つの  
問題 松本光太郎
- 16:05 中国におけるナショナル・アイデ  
ンティティと多文化主義—三つの  
ムスリム少数民族間の分節的ヒエ  
ラルキー— D. グラッドニー
- 16:35 討論 コメント：J. イーズ
- 2月15日(土)
- 9:30 セッション4
- (座長：長野 泰彦)
- 9:30 民族社会の発展と民族文化の変遷  
金 炳鎬
- 10:00 中国人になることを学ぶ?—中国  
の三つの少数民族における少数民  
族教育とエスニック・アイデンテ  
ィティ— M. ハンセン
- 10:30 多民族国家における少数民族語—  
社会・政治的条件のかかわりにお  
いて— 庄司 博史
- 11:10 討論 コメント：S. マラーニー
- 13:30 セッション5
- (座長：朝倉 敏夫)
- 13:30 台湾のオーストロネシア系集団の  
文化再生と民族アイデンティティ  
—1980年から1995年まで—  
蔣 斌
- 14:00 現代におけるアイヌ民族自立運動  
に関する諸問題—近代の同化政策  
から現在の新法制定論議まで—  
大塚 和義
- 14:30 討論 コメント：野林 厚志
- 15:30 セッション6
- (座長：小長谷有紀)
- 15:30 中国・広西西部靖西県におけるチ  
ュワン族の文化変化の一側面—経  
済・社会的変動のなかの民族文化  
変化— 塚田 誠之
- 16:00 オロチョン族の民族文化と現代化  
洪 時榮
- 16:30 討論 コメント：N. ジュコフスカヤ
- 2月16日(日)

- 9:30 セッション7
- (座長：塚田 誠之)
- 9:30 中国少数民族の現代化における基  
本問題の探究 唐 屹
- 10:00 満族の社会・文化の変革と民族の  
発展 果 洪昇
- 10:30 文化とエスニシティ—新たなア  
プローチへの試み— M. クリュコフ
- 11:10 討論 コメント：佐々木史郎
- 13:30 セッション8
- (座長：小長谷有紀)
- 13:30 観光を中心とする経済発展と文化  
—雲南省大理盆地の場合—  
横山 廣子
- 14:00 コーカサス高地少数民族における  
社会経済変化 S. アルチュノフ
- 14:30 討論 コメント：村上 勝彦
- 15:25 総合討論
- (座長：横山 廣子)  
コメント：毛里 和子  
大林 太良

文部省国際シンポジウム  
国際地域研究集会

◎経済改革下の南アジア

期間 平成9年3月17日(月)

～3月19日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、経済自由化  
政策のもとで大きく動く南アジア社  
会の諸相を多様な分野の専門家によ  
る包括的かつ長期的視野に立った見  
地から活発な討論がおこなわれまし  
た。

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

杉村 棟 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究  
部長

端 信行 国立民族学博物館第二研究

	部長	(アジア太平洋コミュニケーション協会代表者(インド))
和田 正平	国立民族学博物館第三研究部長	カルレカル, マーラヴィカ
小山 修三	国立民族学博物館第四研究部長	女性開発研究センター研究員(インド)
杉田 繁治	国立民族学博物館第五研究部長	ジョバレ, レフマン
松原 正毅	国立民族学博物館地域研究企画交流センター長	政策対話センター長(バンダラデシュ)
小村久米夫	国立民族学博物館管理部長	リーヴス, ピーター
実行委員会		カーティン工科大学社会科学学部教授(オーストラリア)
(委員長)		
押川 文子	国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授	ブレマン, ヤン
(委員)		アムステルダム大学アジア研究センター長(オランダ)
小谷 汪之	日本南アジア学会10周年記念事業企画委員長, 東京都立大学文学部教授	シャムスル, A. B.
中里 成章	日本南アジア学会理事, 東京大学東洋文化研究所教授	マレーシア国民大学人類学・社会学学部教授(マレーシア)
杉本 良男	国立民族学博物館第三研究部助教授	ブリジ・タンカ
吉田 集而	国立民族学博物館地域研究企画交流センター教授	デリー大学日本・中国語学科教授(インド)
大津留(北川) 智恵子	国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授	石上 悦朗 福岡大学教授
阿部 健一	国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手	臼田 雅之 東海大学教授
帯谷 知可	国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手	絵所 秀紀 法政大学教授
村上 勇介	国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手	押川 文子 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授
伊藤 憲彦	国立民族学博物館研究協力課長	金子 勝 法政大学教授
報告・討論者		古賀 正則 明治大学教授
ブラピールジット・サルカール	社会科学研究センター教授(インド)	小谷 汪之 東京都立大学教授
ダナガレ, D. N.	シバジー大学学長(インド)	佐藤 宏 アジア経済研究所地域研究部長
ダス, アルヴィンド・ナラヤン		関根 康正 筑波大学教授
		Chandra, Sudhir
		東京外国語大学客員教授, 社会研究センター(インド, スーラト)教授
		内藤 雅雄 東京外国語大学教授
		中里 成章 東京大学教授
		堀本 武功 国立国会図書館
		日程
		3月17日(月)

彙 報

- 10:00 参加者登録
- 11:00 開会式 (司会:押川 文子)  
あいさつ 佐々木高明  
松原 正毅  
辛島 昇
- 11:30 基調報告  
経済改革下の南アジア  
古賀 正則
- 13:15 セッション1:南アジアにおける  
経済改革の特質  
(司会:古賀 正則)  
インドの国際収支危機—新経済政  
策の下で回復したのか—  
プラビールジット・サルカール
- 14:00 パングラデシュにおける経済改革  
ジョバン・レフマン
- 15:00 経済改革:インドと中国の比較検  
討 金子 勝
- 15:45 インドの工業化と政府の役割  
石上 悦朗
- 16:30 コメント 絵所 秀紀  
討論
- 3月18日(火)
- 9:30 セッション2:経済改革下の政治  
システムの変容  
(司会:ジョバン・レフマン)  
経済改革のポリティカル・エコノ  
ミー  
ダス, アルヴィンド・ナラヤン
- 10:15 インドにおける第11次下院選挙の  
政治的意味 佐藤 宏
- 11:15 インドにおける経済改革と政治—  
西ベンガル州の状況—  
リープス, ピーター
- 12:00 コメント 堀本 武功  
討論
- 14:00 セッション3:経済改革下の社会  
変化 (司会:小谷 汪之)  
インド経済における「インフォー  
マル・セクター」 プレマン, ヤン
- 14:45 女性と経済改革:『保健』行政を  
めぐって  
カルレカル, マーラヴィカ
- 15:45 都市住民の政治意識と行動—ボン  
ベイのシヴ・セーナーを事例に—  
内藤 雅雄
- 16:30 経済改革下の農民運動—マハー  
ラーシュトラ州を事例に—  
ダナガレ, D.N
- 17:15 討論
- 3月19日(水)
- 9:30 セッション4:経済改革下におけ  
る文化変容  
(司会:ダス, アルヴィンド,  
ナラヤン)  
コミュニズムと近代の思考法  
関根 康正
- 10:15 経済改革下の「サバルタン研究」  
—変化の特色— 白田 雅之
- 11:15 インドにおける経済計画の期限を  
めぐって 中里 成章
- 12:00 コメント チャンドラ, スティール
- 14:00 セッション5:国際関係の新潮流  
(司会:ダナガレ, D.N.)  
東南アジアから見た南アジアの変  
貌 シャムスル, A.B.
- 14:45 東アジアの経済発展のインドに対  
する意義 プリジ, タンカ
- 15:30 討論
- 16:15 総括討論 (司会:プレマン, ヤン)  
(司会:押川 文子)

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
田村 克己	助教授(第五研究部)	9. 1. 5	9. 1.16	イギリス
加藤 昌彦	助手(第五研究部)	9. 1. 6	9. 2.16	タイ, ミャンマー
吉田 憲司	助教授(第四研究部)	9. 1.10	9. 2.21	フランス, イギリス, スイス

林 勲男	助手 (第四研究部)	9. 1.11	9. 2.28	イギリス, フランス
塚田 誠之	助教授 (第二研究部)	9. 1.13	9. 1.27	中華人民共和国
栗本 英世	助教授 (第三研究部)	9. 1.14	9. 3.10	ケニア, エチオピア
阿部 健一	助手 (地域研)	9. 1.19	9. 3. 9	インドネシア
福岡 正太	助手 (第二研究部)	9. 1.26	9. 9. 9	インドネシア
吉田 集而	教授 (地域研)	9. 1.26	9. 2.26	大韓民国, ベトナム, タイ, マレーシア, シンガポール, インドネシア
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	9. 2. 2	9. 2.23	イギリス
大津留智恵子	助教授 (地域研)	9. 2. 4	9. 8.28	アメリカ合衆国
立川 武藏	教授 (第二研究部)	9. 2.13	9. 3. 5	台湾, タイ, バングラデシュ, ネパール
ピーター・ジョゼフ・マンウス				
	助手 (第四研究部)	9. 2.21	9. 3. 4	ニュージーランド, オーストラリア
大塚 和義	教授 (第一研究部)	9. 2.22	9. 3.12	アメリカ合衆国
臼杵 陽	助教授 (地域研)	9. 2.24	9. 3. 6	チュニジア
山本 紀夫	教授 (第五研究部)	9. 2.26	9. 3.19	ネパール
長野 泰彦	教授 (第一研究部)	9. 2.27	9. 3.26	中華人民共和国, ネパール, インド
清水 昭俊	教授 (第四研究部)	9. 2.27	9. 8.27	中華人民共和国
三島 禎子	助手 (第三研究部)	9. 2.28	10. 2.27	フランス
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	9. 3. 1	9. 3.17	中華人民共和国
上杉 富之	助手 (第二研究部)	9. 3. 1	9. 3.15	マレーシア
田村 克己	助教授 (第五研究部)	9. 3. 4	9. 3.26	ミャンマー
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	9. 3. 7	9. 3.14	カナダ, アメリカ合衆国
小山 修三	教授 (第四研究部)	9. 3. 8	9. 3.21	オーストラリア
久保 正敏	助教授 (第五研究部)	9. 3. 8	9. 3.21	オーストラリア
臼杵 陽	助教授 (地域研)	9. 3.20	9. 5.17	イスラエル
上杉 富之	助手 (第二研究部)	9. 3.27	10. 1.26	イギリス
野林 厚志	助手 (第三研究部)	9. 3.27	9. 4.27	台湾

来館者抄

1月10日	HEGAZI, Mahmoud Mohammed Fahmy (エジプト, エジプト国立図書館・古文書館館長)	国際局学術課課長補佐)
1月13日	笹村 二郎 ((社)北海道ウタリ協会理事長), 高野 勇夫 ((社)北海道ウタリ協会事務局長), 佐藤 幸雄 ((社)北海道ウタリ協会事務局次長)	1月27日 市川 和夫 (松下電器産業株式会社専務取締役)
1月14日	林田 英樹 (文部省学術国際局長), 宮脇 和男 (文部省学術	1月31日 ROSEN, Staffan (スウェーデン, ストックホルム大学東アジア研究所教授), WAHLQUIST, Hakan (スウェーデン, 国立民族学博物館東方部部长)
	2月4日 上島 一泰 ((社)大阪青年会	

彙 報

- 議所理事長), 森島 高文 ((社) 大阪青年会議所常任理事), 金谷 祥司 ((社) 大阪青年会議所理事), 細名 哲夫 ((社) 大阪青年会議所広報委員会副委員長)
- 2月18日 渡辺 孝至 (会計検査院官房審議官), 尾上さち子 (会計検査院第4局監理課副長), 瀬倉 通利 (会計検査院会計監査官)
- 3月3日 アジア地域博物館研修ワークショップ一行
- 楊 志 軍 (中華人民共和国, 黒龍江省文物管理局副局長)
- 3月11日 伍 精 忠 (中華人民共和国, 中国西南民族研究会副会長)
- 3月13日 チェシュコ, セルゲイ・ヴィクトロヴィチ (ロシア, ロシア科学アカデミー民族学人類学研究所付属現代応用民族問題調査センター所長)
- 3月16日 中国教育行政官代表团一行
- 3月17日 清木 孝悦 (文部省学術国際局研究機関課研究調整官), 佐藤 義幸 (文部省学術国際局研究機関課研究所第一係長)
- 3月21日 Tolstoy, Paul (カナダ, モントリオール大学人類学部教授)
- 3月24日 スワティ・カルティア (インドネシア, ジャカルタ国立博物館館長)
- マー一行
- 3月27日 Muhammad Yousaf (パキスタン, パキスタン考古・博物館総局)
- 東南アジア青年招聘計画ミッション

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）



## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 *Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse*. In Eric H. Lennenberg (ed.), *New Directions in the Study of Language*, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 *Social Structure in Southeast Asia*. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 *The Rites of Passage*. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 22卷 1号

〔監 修〕

石 毛 直 道

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

江 口 一 久

清 水 昭 俊

杉 本 良 男

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

---

平成 9 年 8 月 29 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 22卷 1号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園 10-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.22 no.1  
1997

- SUGAWARA, Kazuyoshi** **A Name as a Mnemonic Device: An Ethnographic Study of Personal Names among the Central San ( | Gui and || Gana)**
- SHIMMEN, Mitsuhiro** **Social Change and Religious Conflict in a Romanian Village**
- GOTO, Akira** **Technology as a Process of Practical Problem-Solving: Pottery Making in Tidore, Northern Maluku, Indonesia**
- HUSSAINMIYA, Bachamiya Abdul** **Aspects of Ethnicity among the Sri Lankan Malays**
- VICTORIA, Brian A.** **The Role of Nationalism in the "New Buddhism" of the Meiji Period**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X